

【刊夕】日五廿月三

五種郵 錢十五月一 錢貳金部一 價  
 錢十五行一 詰字三十號五 料告廣  
 治 文 崎 川 入 刷 印 人 輯 編 兼 行 發  
 五 三 町 橋 長 町 平 郡 城 石 縣 島 福  
 番 〇 三 六 話 電 社 聞 新 日 每 警 常 所 行 發  
 社 會 式 株 刷 印 日 每 警 常 所 刷 印

短歌雜誌出でよ

白木英尾

私は嘗てこの欄において標題の如き祈望を述べたことがある、磐城の歌壇が總体的に向上するためには各々の歌人的自覺に俟つと同時に専門的研究批判の機關が必要であると言つておいた、歌人雲の如く湧出すると雖も一冊の機關誌を持たないことは恥かしいのを通り越して寧ろ情けない、私は茲に改めて「短歌雜誌出でよ」と提唱する、而して再びいふ、宮内省派も竹柏

火耀短歌

白木英尾

長男に與へられた運命の孤線——家族制度を呪はしめよ

野村さち子

澄んだ青空の下に、誰もゐないといふ氣安さが私を泣かせる  
 ちつと黙してゐたいのですと言ひ兼ねて  
 やけに芝草をむしり取つてゐる私

夕暮れの村はづれをゆく荷車の音遠くて  
 寂しいな  
 椿の花をみつめてゐたら、あら！なんて青  
 い小鳥だらう

團派もアラ、ギ派もその他いろいろな系統の人々が渾然一箇の集團をなせと。私は平文壇の人々に接して日尚淺くその裏面に如何なる情實が伏在するか甚だ疎い、そのためこの一本氣な祈望が或は各方面から非難を買ふかも知れない、然し高揚された目標の下を一時的に低流する難癖は時を経て自然に消滅する、實に短歌雜誌發刊のためには好機會であると思ふ、只これが具体化に就いて考究してゆく必要があらう。

火短の人と歌

最近において火耀短歌が全く平町の歌人によつて獨

占された形である、これは勿論現在平歌壇において一つの脅威であらうと思ふ、最初タカを括つてゐた人でも次々と現れた新人が何れも相當な作品をみせてゐるので窪田とか野村とかたみえとかといふ名に注意するやうになつた、一度は明石濱男とか片寄歌二とか録々たる人の名もあつたがこれらは寧ろ器用で作られた方であるから先づ前記の人に渡邊喜美を加へた四人が只今のところ火短の中堅をなしてゐると見てよい、作品の傾向も余程精練られてきた、窪田さんの歌は調子が弱く表現が余りに素尙すぎてゐる、それが反つて鑑賞する上に適確さを與へてくれるので非常に讀みよい点がある、それに反して野村さんの歌には壓へても壓へきれない感情を無理に壓へて歌ひ出されたやうな跡がある、つまり歌に凄みがある、深みがある、火短で一番新らしいのはたみえさんだが、この人は前二者を越えて最も自由な手法を取つてゐるその作品は可成り注目されていふと思ふ、しつかり勉強して頂きたい。

國産セイコー腕時計

抽籤 附特賣!

- クローム側腕時計八圓半ヨリ
- 金側全十七圓半ヨリ
- 一等 16形ブラチナ側腕時計 市價 百十圓
  - 二等 16形十八金側時計 六十二圓
  - 三等 OS製扇風機 同 二十六圓
  - 四等 OS月光裏鏡目覺同五圓
  - 五等 OS硝子置足付同二圓
- 特賣期間 六年五月卅一日迄
- 其の他貴金屬、時計新値下品澤山  
 修繕値下 勉強を生命と致します
- 鐵道省御用 金光堂時計店  
 平五 電話一九五

- 別科
- (1) 本科五十名
  - (2) 裁縫専修科百名
  - (3) 師範科三十名
  - (4) 専攻科二十名
  - (5) 第二學年編入若干名

藤田女學校生徒募集

文部大臣 認可

注意

- 入學志望ノ方ハ至急願書提出ノコト
- 詳細ハ本校宛學則請求サレタシ

福島縣平町田町電話「三二八」番

生徒募集

今や入學の好時機なり  
 來りて成績優秀なる  
 學校に入學せられよ

一、申込期日四月八日

平南町 平産婆看護婦學校

校長 清野キヨ

貸切の!

御用命は 菊地タクシーへ

皆様の爲めに努力致します

菊地自動車商會 タクシー部

平町才樋小路(電六三二)

小學生用 豚皮 一圓二十五錢 中學生用 馬皮 一圓九十錢

背 囊 牛皮 三圓三十錢 背 囊 一圓六十五錢

女學用 各種 手提カバン

マルトモの 食品券

新學年用 紙質、綴型 すべて 御贈答用

特製ノート 体裁、値段 優秀 卷紙封筒(箱入) 一圓二、三十錢まで

マルトモ 食堂にも 共通御利用を

七、八十錢より

# 開票

## 郡下タクシー界の

### 人氣投票

(三月二十五日正午現在)

- 一、〇六九 磐城タクシー(平)
- 一、〇三一 三九二タクシー(平)
- 九七三 尼子タクシー(平)
- 六三五 野崎タクシー(平)
- 五四七 旭タクシー(四倉)
- 五一六 昭和タクシー(平)
- 四三〇 海氣館タクシー(四倉)
- 三〇一 三井タクシー(平)
- 一〇四 菊地タクシー(平)
- 六六 すまやタクシー(小名)
- 二七 鈴木タクシー(湯本)
- 一五 植田タクシー(植田)

## 磐城タクシー

### 先づ第一線に立ち

#### 愈々白兵戦に入る

勢力伯仲の三九二と尼子  
スピードアップする昭和

我が社の郡下タクシー界人  
氣投票募集を發表してから  
茲に九日を経て競争は愈々  
白兵戦に入ったものゝ如く  
續々と集つてくる

### 投票の

東に本社懸賞  
係は一驚を喫しながら一枚  
々々丹念に審査をつづけて  
ゐるが本日開票第七日目の  
戦況は別項の如く磐城タク  
シーが嶄然白兵戦の第一線  
に立ち之について三九二

### 何十米のハヤテの如

く全速力で疾走を續けてゐ  
る様は常磐濱街道の一大壯  
観である、これに稍々遅れ  
て野崎タクシーが素晴らし  
い勢ひで四倉の旭を抜いた  
一方しばらく不遇な地位に  
ゐた昭和が愈々スピードア  
ップしてゆき早くも三井を

落してゐるが四倉の海氣館  
は  
昨日の六十九点へ一  
舉三百六十一点を増してゐ  
るので同町の旭タクシーと  
争覇する氣勢がみえてゐる  
等いづれにせよ今後は實力  
戦となるであらう

農會總代を  
植田で減數  
廢止の前提か

### 農會總代を 植田で減數 廢止の前提か

植田町では四月一日行はる  
農會總代選舉に先立二十  
六日豫選會を開く事になつ  
たが近來農會に對する一般  
の輿論が兎角面白からぬ傾  
向を辿りつゝある結果とし  
て現在の總代數二十八名を  
三分の二に減じ十八名とな  
す筈である同町の同豫算は  
六年度六百圓に過ぎないが  
養蠶同業組合の四百圓を合  
せば一千圓となるので時節  
柄過分であるとの意見を抱  
いてゐる者が非常に多いの  
で一面兩者の合併乃至は農  
會廢止の前提であると觀ら  
れ郡内各町村から注目され  
てゐる

### 新らしい 一年生

#### 今日身体検査

平町第一第二第三小學校本  
年の就學兒童は廿五日各小  
學校に於いて夫々兒童の身  
體検査を執行したが各校の  
就學兒童數は第一校二三一  
第二校二二二第三校男八七  
女八三計一七〇で總合計が  
六二三名が小さき一年生と

### 碁の話

月十七日には江戸城  
内黒書院に於て家元  
四家を始め、七段以  
上は碁打に手合をさ  
りましたのは、千有  
餘年の昔であります  
が、それが日本の國  
技となるまでに發達  
し、著しい進歩を見  
るに至りましたのは  
織田、豊臣の時代を  
経て、徳川時代にな  
つてからの事であり  
ます。御承知の如く  
徳川幕府では碁棋基  
所といふものを置き  
て碁打や將棋指に祿  
を與へ、尙毎年十一  
月御城に成績を擧げ  
なつたわけである

### 南町青年團 基本金を作る

#### 平館入場券で

平町南町青年團では今回基  
本財産を造る爲め二十五日  
平館主と相談の結果同館の  
入場券を販賣し其利益金の  
交付を受ける事になつたと

### 新刊紹介

福島縣歌人昭和五年  
自選集(天野多津雄編)

歌壇的流派の如何を問はず  
唯そのまゝの作品を蒐めて  
本縣歌壇の横断面であり得  
たいのがこの集の使命で  
(編者)平歌だんからは高久  
晚霞、大平松夫、根本信義  
など、いふ名がみえる(定  
價三十錢福島新聞社發行)

## 郡下タクシー界の

### 人氣投票懸賞募集

投票用紙	
名會商	名姓所住

常磐毎日新聞社



一冊の代金で  
御希望通りな  
五冊の雑誌が  
自由に讀める  
川崎巡回文庫  
電話六三〇番  
(申込次第規則書送呈)

藤沼醫院  
平町紺屋町  
電話五〇七番

上田外科醫院  
平町南町  
電話一二九番

外科  
専門  
科線光X

看護婦急派  
の求めに應  
じます

平町南町  
平看護婦會  
電話三〇七番

### 辛うじて工事續行

## 平町の主張貫徹

行惱みの新川改修

總會には一紛擾か

平町外二ヶ村水害豫防組合  
委員會は去る廿三日午後一  
時から平町役場内に開き新  
川改修工事に就き協議した  
が同工事は既に

### 先月末で内郷村飯野

村地内が竣工し目下平町十  
五丁目地内を工事中である  
が、不況の折柄之が經費負  
擔に堪えかねて既報の如く  
一部組合員間には工事延期  
を唱へてゐたが結局六年度  
において五千圓の豫算を  
以て出来るだけ

### 節約し繼續施行する

ことになり  
一、平町より寄附一千圓

## 大衆黨員の妻は

### 搜索中の斷髮藝妓

前借を踏倒して潜伏中

もとの雇ひ主から告訴

平町田町三〇藝妓屋板橋清  
吉は茨城縣久慈郡久慈町日  
本大衆黨員石川新喜方同居  
人杉田キク(三)を相手取り  
今二十五日詐欺の告訴を提  
出したがキクは昨年五月六  
日平町田町周旋業猪狩千勝  
の周旋で三ヶ年間藝妓に

### 住込の

爲め前記板橋  
から七百五十圓を前借した  
處同月十四日逃走し小名濱  
町古港へ潜伏して居るのを  
發見した其の時キクは既に

内縁の妻である關係を主張  
し暴力をもつて引渡を肯ん  
じないので清吉は憤慨し前  
記詐欺の告訴を提起したも  
のであると

### 烈風中に

昨夜來平  
町地方を  
襲つた強風の爲め二十四日  
午後十二時頃平町鍛冶町地  
内にある東部電力平營業所  
の電柱が倒壊したので同夜  
約一時間に亘り同方部一帯  
に送電を中止し修繕を行つ  
たと

### 暗黒世界

一、工事は從來のやうに  
請負に付せず材料を組合  
で購入し勞務は實際に關  
係部若から人を出し反別  
割八十錢、賦役割一圓廿  
錢に軽減すること  
に意見の一致を見たので來  
る廿七日午前十時組合  
總會を開く事となつ  
たが同組合は組合負擔金の  
未納が多額に達し工事施行  
に支障を來してゐる状態  
あり總會では何れ一紛擾を  
免れぬらしい

## 浪花節語りの妻

### 前後七百圓の反物窃取

福島市陳場町金坂生れ浪花  
節語り雲井燕内の妻森田チ  
ヨ(三)は去る二十日平町研  
町北川吳服店に於てモスリ  
ン反物六反價格四十圓を万  
引した處を平署員に發見逮  
捕された事は既報の如くで  
あるが平署で引續き取調べ  
た結果去月十日頃より平町  
三丁目丸龜吳服店より六反  
三井吳服店より三反、二丁  
目伊關吳服店より二反、小  
野吳服店より二反、鍛冶町  
吉田吳服店より一反を計二  
十反價格六百圓を窃取した  
事自白に及んだが近く送檢  
される模様である

## 火薬で狐狸を退治し

### 檢舉されてコリコリ

狩獵法違反の男

石城郡内郷村御厩三里重春  
之方里重喜作(五)は二月二  
十日石城郡警備村湯ノ岳山  
上に於て鶏冠石と稱する爆  
薬をもつて狸一匹を捕獲し

## 搜索願二件

郷里が戀しく  
丁稚飛びだす

石城郡好間村大字北好間松

### 明日の天気

廿六日  
今晩は北西の風  
強く晴明日は北  
西の風天気良き  
見込み

### ラジオ体操

前七、〇〇 ラジオ体操  
前九、〇〇 氣象通報  
前九、〇五 經濟市況  
前九、一〇 料理献立「小  
兒及病人用献立」第二菊  
地貞子發表 日用品價值  
前九、三〇 經濟市況  
前一〇、三〇 家庭講座  
「家庭に必要な消毒の  
知識」秋葉朝一郎  
前一、四〇 經濟市況

正午 時報  
後〇、〇五 映畫物語「惡  
魔の假面」須田貞明 伴  
奏指揮 杉浦祐治  
後〇、四〇 全國ニュース  
氣象通報 告知事項  
後一、〇〇 經濟市況  
後二、〇〇 家庭大學講座  
「日本演劇史」歌舞伎劇第  
九講 河竹繁俊  
後二、三〇 經濟市況

後三、四〇 氣象通報  
後三、五〇 經濟市況  
後四、〇〇 全國ニュース  
後五、〇〇 子供の時間  
「働く人々の話」私の体験  
談 第三話 沼倉 博  
後五、三〇 經濟市況  
後五、四五 今晚の番組豫  
告  
後六、〇〇 (子供の時間)  
コドモの研究したお話  
「名勝脚踏ケ岡」佐々木一  
郎 萩谷滋 山本昌夫  
後六、三〇 最新自物科學  
講座「運動生理學」杉本良  
一  
後七、〇〇 全國ニュース  
氣象通報 告知事項 番

### 小名濱町から

内縁の妻家出

石城郡小名濱町宇沖見町料  
理店小松豊内縁の妻東京府  
下淀橋町柏木生れ稻葉勝三  
郎長女さくら子(三)は去る  
十六日午後四時半頃無断家  
出し平町まで來つた事判明  
したがその後の行衛不明の  
爲め二十日平署に同人の  
搜索方を願ひ出た

## 白熱的斷然大安賣!!!

是非一度御來店を乞ふ

- 男女學生カバン 一等品 金二十五錢
- 男女 生手 提 一等品 金五十錢
- 牛革製ラントセル 一等品 金二十圓廿錢
- 日本一のカテイカメラ 附屬一揃 金五十錢
- 同 特等品 金九十錢
- 六吋ゴムマリ 金二十五錢
- 特ニ學生カバン類ハ製造元ヨリ直接大量ニ仕入  
シ爲メ市價ヨリ約二割安ニ御願申上ラレマス
- 其他大小玩具諸系類何品ニヨラズ此際利益度外  
ノ大安賣

## 森下商店

平町一丁目 商號(豆屋)

## 比佐昌平

福島縣石城郡湯本町

母コウ儀永々病氣中の處藥石其効無  
く三月二十四日午前零時死去仕候間  
此段生前辱知諸君に御通知申上候  
追て送葬の儀は三月二十九日午後二時自宅出  
棺當町勝行院に於て佛式相營可申候  
昭和六年三月二十四日

### 健胃と消化

小野清治謹製





東京橋場納刺 (米田安藏書)

「サア其の金針は素々五本あつたのです、何處かへ一本無くなつたと見えて、師匠が手探りに探りながら、是れは四本だ其處らに一本落ちて居ないか、見て呉れと私に言つた事があります」

「夫れは何時ですか」

「師匠の鎌日の日の朝の事でした、丁度日商の地帯の事、入口を塞がれて居るから、私が師匠と話し居る時、お市と師匠が呼んで、針のことを言つたので、それから居ます」

「ストロウの朝だ」

九日の晩に丸屋の職人が死んで居る、お市が金の針を拾つたので、其時、急々森川の職人は、紙の上に、検校の掘んで居た金の針四本を並べた。

「ハイ、夫れは師匠が使つて居たものでございませう」

「夫れは判つて居るが、今お前が五本づつが一通りだと云つた、是れは四本で一本不足ぢやないか、夫れを聞くのだ」



「何だか機嫌が悪く物言つて、もつと居たのです」

「其後丸屋の治右衛門が尋ねて来たらう」

「丸屋の目撃はお出になりませう」

「代が變つて居るに、元々通り出入りをして居たものが、其處の日影と違ふのは、疑はるやうに思ふが、お前は検校とは、お市も同じ關係があり、口の女中、無のだから、検校の身の重りの事は何んでも知つて居るのだ、隠して居るとは、成らぬ、何事でも知つて居る事、是れは、何事か、お市、何の爲めに、検校は丸屋の治右衛門に違はぬ様に居たのだ」

安藏の目撃に、グラキが牛乳だ、森川と治右衛門との間に、森川があるやうでは、隠居の跡が、立たなく成つて来る、鏡を、張つてお市を覗き見たが、其の眸みは一向利かたつた。

「丸屋は師匠のお得意場に、は違ひなかつたので、一年、此の方見舞が大層お喜びなされる、除根手詰つたものと見えて、師匠、り、丸屋を吐くとは、受取れなかつたか、と云ふ、来る度、金の事、治右衛門と丸屋の間の、丸屋は無いとなり當が外れた。

# 外科

内臓外科 醫學士  
整形外科 松永憲一  
外科一般

## 平新川町十九

木村病院

産婦人科院長從前通り診療

質物一般

# 三井質店

平町四丁目南川岸通り  
電話六〇六番

**梅毒 淋病**

淋病 皮膚病 婦人病 腸胃病

門專 十二指 腸虫病

松村村松 醫學士  
腸胃病 胃性 腸病

院醫科 南平町  
七〇一話電

貴つて重寶 贈つて便利な

三井の品商

店服吳井三

# タクシー部開設

車は！三二年セダン型

乗心地は此の上もなく

御用命はゼヒ

電話三九五番

芹澤自動車商會

タクシー部

平町三丁目(電話三九五番)

# 吉田眼科病院

平街屋町(電話六八八番)

印刷物の御用命は總て

常警日印刷株式會社

電話六三〇番

# 卒業紀念の御寫眞は富士カメラでお互に撮り合ひませう

第一經濟で深い印象が残る

永久の紀念寫眞となります

良く寫るので益々評判の富士カメラ

# 第四回懸賞寫眞募集

〆切期日 昭和六年四月二十日

發表 同 四月二十五日

# 特別大賞品

- 一等 美術置時計 一人
- 二等 歐文タイプライター 三人
- 三等 携帶用カバン 六人
- 四等 エナメル塗金屬製バット一組ツ、 十人
- 五等 ヘルロイドバット一組ツ、 二十人

規定及び御不明の點は主催店へ御問合せ下さい

- 富士カメラ 改正(自動位置見付) 一揃、一圓
- ツバメ號 レフレックス型) 一揃、一圓
- ツバメ號 ファインダー付速寫式 一揃、二圓
- ツバメ號 ファインダー付 一揃、一圓
- ツクバ號 小學生練習用 一揃五十錢
- 引伸器 金一圓より 二圓五十錢迄各種
- 外材料一般いつも豊富に揃つて居ります
- 平驛前

# いづみや玩具店

電話(呼六二〇番)

度量衡、計量器、吸入用酸素、酸素吸入器

# 關内藥局

電話四〇番